

St. Luke's International University Repository

Japanese faculty development program 参加報告: 国際学会・セミナー参加報告

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2007-12-26 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 久代, 和加子 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10285/405

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



5. Japanese Faculty Development Program 参加報告

2000年9月11日～15日の5日間、ハワイ大学看護学部主催の Japanese Faculty Development Program に参加した。3カ月ほど前に83歳で亡くなった Francis Matsuda Sano 氏 (Health of Women を専門として活躍していた医師) の遺志により設立された基金の一部助成による1回目の企画である。日本の8つの看護大学とその関連機関の教員等、17名による好奇心にあふれた交流の機会となった。初回ということもありプログラムは多岐にわたっていた。主なテーマは、21世紀の看護教育におけるリーダーシップ、カリキュラムモデル、Inquiry Based Learning、クリティカルシンキング、臨床実習先との連携、体験に重点をおいた国際色豊かなハワイ大学ならではの選択コース、学部・大学院カリキュラムの実際、具体的な教育開発、パソコンネットを用いた教育、研究プログラムの開発、試験と評価など。興味深かったのは、Inquiry Based Learning であり、Tutor の役割、事例の作り方、ディスカッションの進め方などについてより具体的に学ぶことができた。その他国際性の理解のために教員とともに小グループでアジアやヨーロッパに出かけ、異文化のもとで健康について学ぶ機会を持つという選択コースの紹介も興味深かった。大学の廊下には大きな文字で「Student First」と書いてあり、学生が主体的に、自主的に、楽しく学べるよう配慮された教育環境や教員の努力する姿勢が伝わってきた。また教員が熱心にコミュニティサービスプログラムに参加し、地域と一体になって活動していることから、大学が地域の健康や教育の発展に大きく貢献していることが伝わってきた。

(老年看護学：久代和加子)